

## 町民の幸福度の向上と 町のさらなる発展を目指して

新年を迎え、謹んでごあいさつを申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、心穏やかに新春をお迎えのことと拝察いたします。

さて、世界では紛争が絶えず、多くの国々が政治的混乱に陥って分裂や崩壊が起こるなど、社会情勢の不安定化がますます顕著となってきました。平和の光がなかなか見えてこない状況が続いています。

国内においても、昨年は年明け早々から能登半島地震発生という衝撃的な出来事に始まり、政治では裏金問題の発覚、また、国民生活は、所得水準の長年にわたる低迷と長引く物価高騰により厳しさが増すなど、不安、不信、不満が一層高まった年であったかと思えます。

一刻も早く、こうした状況が好転し、本年がその転換期となるよう願います。

町内におきましては、創造的復興の代表事業ともいえる県道熊本高森線4車線化がさ

らに進展し、町の大動脈の活発な流れが感じられるようになってまいりました。

今後、こうした交通インフラの整備とともに生活利便性が向上し、この町で暮らす皆さまがより心豊かで健康な生活を送れるようになることが、熊本地震の傷を癒やす意味でも極めて重要であると思っております。

昨年は、悲願であった祭りの再開が、秋祭りとして実現しました。

町では、これからも生活環境の向上をはじめ、復興事業やにぎわいの創出など、まだまだ多くの事業が進められてまいります。

町議会といたしましても、議員それぞれが住民の代表として議論を尽くしながら、引き続き、町民の安全安心な暮らしを第一に、予算をはじめとする多くの議案について、慎重審議により町としての意思決定を行っていくとともに、町政の監視役としてもその機

## 魅力的なまちづくりに向けて 全力投球で取り組む

新年を迎えるに当たり、町民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。

まずは、昨年発生した「令和6年能登半島地震」で犠牲になられた方とそのご遺族に哀悼の意を表しますとともに、被災者の皆さまが一日も早く元の生活を取り戻されることを願っております。同じ災害を経験した自治体として今後支援を続けてまいります。

さて、本町は昨年、町制70周年という節目を迎えました。このような中、平成28年熊本地震からの復興は、県道熊本高森線の4車線化や、木山区の復興土地地区画整理事業が着実に進捗しております。

また、保存整備が完了した布田川断層帯(谷川地区)につきましましては、展望広場と併せて、教育・観光資源としてだけでなく、町民の憩いの場として広く親しまれております。

さらに、潮井自然公園においては、新たにキャンプ場や水遊び場などの整備を進めて

おり、今まで以上に町のにぎわいづくりに寄与するものと期待しているところです。

加えて、「益城復興木山初市」が5年ぶりに木山横町通りで開催され、「益城町みんなの秋祭り」では、9年ぶりに5千発の花火が打ち上げられました。町民の思い出を彩ってきたイベントが再び開催されることで、当たり前の日常がようやく戻ってきたのだと心から実感し、万感胸に迫る思いでした。

さて、本年は、役場庁舎南側には交通広場が、仮設庁舎跡地には地域共生センターが供用開始となります。県道熊本高森線の4車線化も終盤を迎えることで、復興の勢いはさらに加速してまいります。

また、町として初めての取り組みとなる産業団地の整備の他、空港周辺の産業集積、益城台地土地地区画整理事業の進捗により、町の産業の活性化や移住・定住の促進も、より一層進展する年となります。

町としましても、この機会を大いに活用し、震災前よりも、より魅力的なまちづくりに向けて、全力投球で取り組んでまいります。

本年も、変わらぬご支援、ご協力のほどよろしく願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。



益城町議会会長  
中川公則



益城町長  
西村博則